



平成 28 年 12 月 19 日
国土交通省中部地方整備局
港湾空港部

お知らせ

地域の特産品「三州瓦」をリサイクル材料として 港湾工事における利活用を検証 ～第 2 回破砕瓦の港湾工事への利活用検討委員会を開催しました～

中部地方整備局は 12 月 13 日（火）、今年度第 2 回目となる「破砕瓦の港湾工事への利活用検討委員会」を開催、破砕瓦の港湾構造物への利活用検討についての試験方法や各用途への適用性評価について、助言をいただきました。

1. 実施内容

開催日時：平成 28 年 12 月 13 日（火）13:00～15:00

開催場所：中部地方整備局 丸の内庁舎 第一会議室（1 階）

委員：別紙参照

議事内容：① 追加試験の実施
② 港湾構造物の各用途への適用性の評価
③ 破砕瓦の利活用技術資料の構成案

議事概要：これまでの試験結果から得た材料特性の考え方
や、追加的に必要となった試験の内容、港湾構造物
の各用途への適用性の評価、利活用方策について、
助言をいただきました。

※詳細は次ページ参照



〈第 2 回委員会の様子〉

2. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、半田記者クラブ
碧南市政記者クラブ、港湾空港タイムス、港湾新聞、日本海事新聞、海事プレス

3. 問い合わせ

国土交通省 中部地方整備局 港湾空港部

海洋環境・技術課 東野（ひがしの）、鈴木（すすき）

TEL：052-209-6329 FAX：052-209-6308

—参考—

中部地方整備局港湾空港部では、三州瓦の製造過程で発生する規格外品である破砕瓦について、平成 27 年度より港湾工事への利活用検討を行っています。

今年度は、衣浦港に造成した実験施設による実証実験や室内試験を行い、港湾構造物の用途毎の適用性について検討をしており、計 3 回の委員会を開催する予定としています。



第2回 破碎瓦の港湾工事への利活用検討委員会

議事概要

1. 委員会審議概要

① 追加試験の実施

荷重載荷時の破碎瓦の計測土圧の挙動把握を目的として、「模型載荷試験」を追加し、水平土圧に加え、鉛直土圧の計測を行うこととする。

② 各用途への適用性の評価

材料特性を整理した結果、陸上施工を想定した用途に対しては、特段の留意事項がなく、適用性が高いといえる。一方、水中投入による海上施工を想定した用途に対しては、いくつかの留意事項への対応が必要となるが、十分に適用できる可能性があるといえる。

③ 破碎瓦の利活用技術資料の構成案

参考資料として、本検討において行った実験結果をとりまとめて掲載しておくべきである。

2. 今後の取り組み（第3回委員会に向けて）

① 各用途への適用性の評価検討

追加試験の結果を踏まえた材料特性の整理を行い、港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドラインに追加が可能と考えられる適用用途および技術情報の検討を行う。

② 破碎瓦の利活用技術資料案の作成



【別紙】

第2回破碎瓦の港湾工事への利活用検討委員会

委員名簿

座長

前田 健一 名古屋工業大学大学院
社会工学専攻・高度防災工学センター 教授

委員

森河 由紀弘 名古屋工業大学大学院
社会工学専攻・高度防災工学センター 助教

水谷 崇亮 海上・港湾・航空技術研究所
港湾空港技術研究所 地盤研究領域 基礎工研究グループ長

行政関係者

辰巳 大介 国土交通省 港湾局 技術企画課 技術監理室 課長補佐

工藤 健一 国土交通省 中部地方整備局 港湾空港部 港湾空港企画官

鈴木 信昭 国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所長

小椋 進 国土交通省 中部地方整備局
名古屋港湾空港技術調査事務所長

オブザーバー

愛知県陶器瓦工業組合

(敬称略)